



養護部だより NO.2

2018年11月号 熊本県教組養護部



県教組・高教組養護部合同講演会開催

演題 「改めて『養護をつかさどる』を考える」

講師 養護実践研究センター代表 大谷尚子さん



2018年9月22日、大谷尚子先生をお招きして県教組・高教組養護部合同講演会を県教育会館で開きました。

初めての高教組との合同開催でしたが、単独ではお呼びすることが難しかった大谷先生を講師にお迎えすることができました。県外へも呼び掛け参加者は52人と盛況でした。

3つのテーマ①「つかさどる」を考える～自立性・自律性の視点から歴史をたどってみよう②「養護」について考える③養護教諭の実践から「あなたが大事」を伝える～に沿ってのお話でした。大谷先生の「養護」に対する情熱と深い分析に、改めて養護教員であることを誇りに思える講演でした。

大谷先生の講話の後は、「今、執務に関して困っていること、憤っていること」をテーマにワークショップをしました。各グループでは、組合の研修でなければ出ない本音がばんばん飛び出して、それを共感してくれる仲間を感じることでできる時間を過ごせました。



ハンセン病関連の施設見学

講演会の日午前中と翌日、大谷先生と養護部の有志とでハンセン病関連の施設見学に行きました。本妙寺では、地元のボランティアガイドさんから案内してもらい、恵楓園の社会交流会館では、ボランティアガイド資格を持つ市教組の立山さんが説明役をかって

くださいました。翌23日は島崎にあるコール館（元待労院資料館）で、シスターの話から、大谷先生が以前教授をされていた聖母大学と関係があることがわかりました。黒髪にあるリデル、ライト両女子記念館は、地震被害のため外からの見学でしたが、当時の様子に思いをはせることができました。ハンセン病の撲滅という最終の目的は同じでも、患者さんたちに寄り添い治療したりリデルさんやコール神父、シスター達と、患者さんたちの存在を消し去ろうとした日本の保健行政にかかわった人々との違いについて考えさせられました。

人として、養護教員としての立ち位置をあらためて問われた体験でした。

